

## 赤水さん資料 きょう重文に

### 一橋徳川家の文書なども

3月に国の文化審議会が文部科学省に答申した「長久保赤水関係資料」（高萩市歴史民俗資料館保管）と、「一橋徳川家関係資料」（県立歴史館保管）が国の重要文化財に指定される。30日、文科省の官報告示で正式に決定す

る。

高萩市出身の長久保赤水（1717～1801）は江戸中期の儒学者・地理学者で、日本で初めて経緯と緯線を記した日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を出版した。指定される資料群は赤水の複数の

子孫宅に伝来した地図や文書、典籍など計693点で、赤水の学問の内容や交友関係、生涯の功績を考える上で最もまとまったもので、江戸時代中後期の文化史、地図史の研究においての学術的価値が評価された。

一橋徳川家は田安・清水両徳川家とともに「御三卿」と称された名家で、11代将軍家斉、15代慶喜を輩出した。資料群は一橋徳川

家から県に寄贈されたもので、文書や書画など計4715点。同家の家格、家政、幕政への関与や、内外における儀礼の実態をうかがうことができ、江戸時代の政治史、文化史、古文書を研究する上で価値が高いとされた。

（林将生）